

12月 HUG だより

情報提供者：やましろ小児科 山城 武夫

12月のテーマ：小児のアレルギー

HUG だよりで 2 度 3 度アレルギーについて記載しています。その後4～5年経過しています。アレルギー疾患には「アトピー性皮膚炎」「気管支喘息」「花粉症」「食物アレルギー」等がありますがその中で、今回は食物アレルギーを中心に管理、予防、災害時の備え等を考えてみたいと思います。

食物アレルギーの症状は原因食物を食べた時に

- 皮膚症状（蕁麻疹、発赤など）
- 口腔内症状（口の中が痒い・イガイガするなどの軽い症状）
- 消化器症状（吐き気、嘔吐、下痢、腹痛など）
- 呼吸器症状（咳、ゼーゼーする呼吸、息苦しい、声がかされるなど）
- 全身症状（ぐったり、意識もうろう、唇や爪が青白いなど）があります。



食べて数分以内から数時間後までに症状が様々な程度で出てきます。緊急性の高いのは上記の症状が急速に出てきて血圧が低下、意識症状、呼吸困難がでている状態でアナフィラキシー、アナフィラキシーショックといい、特に注意が必要です。アドレナリン自己注射薬（エピペン）を処方されている患児は特に注意が必要です。

診断には原因と考えられる食物を食べてアレルギー症状が誘発されること、血液検査で（食物特異的 IgE 抗体で感作を確認）その食物に感作されていることの両方で診断します。しかし、食べ物の状態、調理方法、年齢等を考慮し、特異的 IgE 抗体が陰性でも食物アレルギーと診断される場合もあります。除去食をする場合は食物経口負荷試験をする必要があります。

3カ月児

のアレルギー対策で湿疹のある赤ちゃんは、食物アレルギーを発症しやすいことが知られていますので、皮膚はできるだけきれいに保ちましょう。授乳中の母さんがあやしい食べ物（卵や牛乳等を避ける）を除去しても予防効果はありません。離乳食は普通に（5～6カ月を目安に）始めましょう。特定の食物を遅らせても予防効果はありません。

1歳半児

では特定の食べ物を食べて皮膚のかゆみ、じんましん、口などの違和感や、上記のアレルギー症状がでます。皮膚をきれいにしましょう。でも、湿疹等が続く時は受診しましょう。アレルギーの多い食べ物の順位は鶏卵、牛乳、小麦、木の実、落花生、果物、魚卵です。除去食は医師に相談しましょう。食物アレルギーの発症予防のため、特定の食物の摂取開始を遅らせることは推奨されていません。

3歳児

では1歳半同様症状に注意し、特異的IgE抗体、食物経口負荷試験を参考にして、医師の診断、指導を受けましょう。



鶏卵アレルギーと予防接種ですが、鶏卵と関連性があるとされているのは3つのワクチンです。MRワクチン、ムンプスワクチンとインフルエンザワクチンです。前2者は製造過程でニワトリの胚細胞を使いますが、一般的な卵アレルギー患児が反応する鶏卵タンパクは含まれていませんので予防接種は出来ます。一方、インフルエンザワクチンは製造過程で有精卵を使いますので鶏卵タンパクの混入が懸念されますが、その量は極めて微量で、通常接種でのアレルギー反応は極めて低いと言えます。インフルエンザワクチンでアナフィラキシーを起こした症例を対象にした研究では、卵成分が主要原因アレルゲンでなく、ワクチン成分であることが証明されています。従って、インフルエンザワクチンの接種要注意者として鶏卵、鶏肉、その他鶏由来のアレルギーがある児があげられますが、接種不適当者ではありません。ワクチン成分によるアナフィラキシーがあった者とされています。接種を希望の場合は、よく主治医の先生とご相談の上接種していただいて下さい。

最後に、「災害対応」ですが、災害時には

- 1.常用薬が入手できなくなる。
- 2.より緊急性の高い疾患や外傷者が優先される。
- 3.環境の悪化による増悪。
- 4.感染の流行による増悪。
- 5.災害のストレスによる増悪。
- 6.医療上の個人情報（病歴・服薬歴など）の消失。が考えられます。



食物アレルギーに関しては

- 1.アレルギー対応食の不足。
- 2.炊き出し食における誤食。
- 3.アナフィラキシーに際しての対応の遅れ。
- 4.食物アレルギーに対する周囲の理解不足。があります。



その対応・準備として、

- *アレルギー疾患の薬は1週間分。
- *アレルギー対応食品を1~2週間分。
- *アドレナリン自己注射（処方されている場合）エピペンを常に準備して下さい。